

自然環境の評価と保全・再生・利活用による地域デザイン

関連キーワード: 持続可能な地域、環境マネジメント、政策提案・運用、生態系サービス、SDGs

研究内容

人類が自然環境に対して行ってきた行為は、生態系を著しく変質・荒廃させ、私たち、とりわけ未来世代の健康、暮らし、安全安心を根底から脅かす状況に至っています。万人が日常の衣食住、学習・経済・文化活動において、地域・国際社会の安寧と持続を可能にする行動を推進することが必要です。

私自身は、(1)生態系の基盤である植物の分布や共存機構を、世界各地の多様な環境、自然やヒトによる攪乱の下で調べ、また(2)里山・里地・里浜といった「ヒトが地域生態系の特徴を読み解き、順応的に賢く自然と共存してきたふるさと」を学際的な視点で探究し、(3)これらの成果を、環境教育や地域づくり、政策立案などを通じて、社会にインプットしてきました。

多様な専門家、市民団体、住民、学校・公民館、行政機関、企業と協働しての、東日本大震災とその後の復興・防災・まちづくりへの「地域にねざした取り組み」は、その象徴と言えます。

地域・産学官連携の可能性、事業化のイメージ他

景観生態学の原理・解析手法を用いて、地域特性を学際的に読み解き、自然環境・地域資源の合理的・持続的な利活用のあり方、地域づくりのシナリオをボトムアップで構築します。

その際、(1)鳥の眼（衛星画像や国土数値情報などの空間地理情報の活用）と虫の眼（野外・文献踏査やインタビューなど）、(2)歴史（地域の文化・規範など）と未来（住民の想い・展望など）を大切にします。

研究者プロフィール

- ・地域総合学部 地域コミュニティ学科 教授
平吹喜彦
- ・景観生態学、持続を可能にする教育（ESD）
- ・自然環境復元学会、景観生態学会、植生学会

- ・自然環境復元学会会長、植生学会運営委員
環境省自然環境保全基礎調査検討会植生分科会委員、
国土交通省名取川水系河川整備学識者懇談会委員、
宮城県土地利用審査会会長、
仙台市広瀬川清流保全審議会会長

- ・平吹喜彦(共著). 2020. 巨大地震・津波で攪乱された仙台湾岸の生態緑化. 『在来野草による緑化ハンドブック 身近な自然の植生回復』(根本正之・山田晋・田淵誠也編). 377頁. 朝倉書店.
- ・岡浩平・平吹喜彦(編著). 2021. 大津波と里浜の自然誌. 117頁. 蕃山房.
- ・原慶太郎・菊池慶子・平吹喜彦(編著). 2021. 自然と歴史を活かした震災復興 持続可能性とレジリエンスを高める景観再生. 257頁. 東京大学出版会.
- ・平吹喜彦(共著). 2022. 景観生態学(日本景観生態学会編). 246頁. 共立出版.
- ・島田直明・平吹喜彦(共著).. 2023. 東日本大震災の被災海岸 大津波から、着々と回復中. 『愛しの生態系 研究者とまもる「陸の豊かさ」』(植生学会編). 239頁. 文一総合出版.



研究者への連絡先

- ・yhira@mail.tohoku-gakuin.ac.jp
- ・<https://sites.google.com/site/ecotonesendai/>